

気候変動予測先端研究プログラム令和5年度公開シンポジウム
「教科書では分からない気候変動 ～最近の異常気象から長期対策の必要性まで～」
国連気候変動に関するCOP28会議の成果



2023年12月25日
WWF ジャパン 専門ディレクター（環境・エネルギー）
昭和女子大学特命教授、京都大学院特任教授
小西雅子

COP28アラブ首長国連邦
ドバイ会議にて
（2023年12月）

小西 雅子

- (公財) WWFジャパン 専門ディレクター(環境・エネルギー)
- 昭和女子大学大学院 福祉社会・経営研究科 福祉共創マネジメント専攻 特命教授
- 京都大学大学院 総合生存学館(思修館) 特任教授
- (株)東邦銀行 社外取締役

博士(公共政策学・法政大2018)。米ハーバード大院修士課程修了(2005)。気象予報士(1997)

【略歴】

中部日本放送アナウンサー等を経て、2005年から国際NGOのWWFジャパン勤務。

2017年から大学教員兼職、2022年から東邦銀行社外取締役。

国連の気候変動に関するCOP会議に2005年から参画、「パリ協定」の成立に尽力。国内外の環境エネルギー政策に高度な専門知見を持ち、企業経営層へのサステナビリティ経営に関するアドバイス経験豊富。環境省中央環境審議会委員など公職多数。

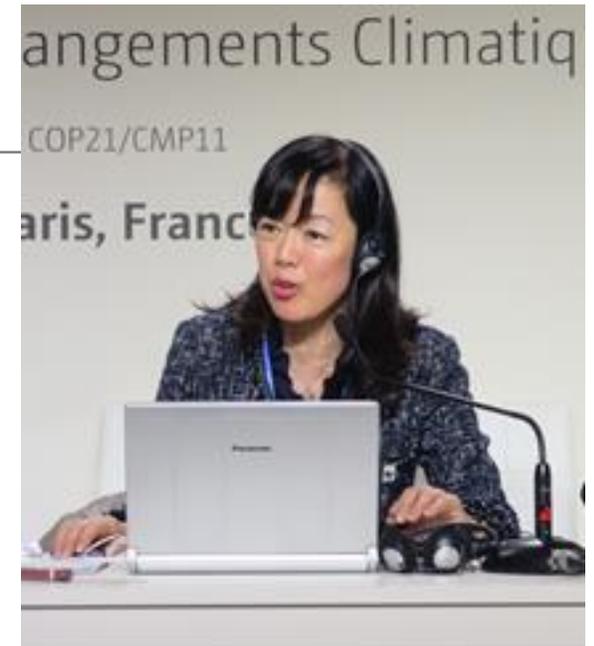
【主な著書と論文】

『気候変動政策をメディア議題に』著 (ミネルヴァ書房2022)

『地球温暖化を解決したい エネルギーをどう選ぶ?』著 (岩波書店2021)

『Routledge Handbook of Environmental Journalism, Part IV: Environmental Coverage in Asia and Australia; 25. The status and Future of Environmental Journalism in Japan』共著 2020

『地球温暖化は解決できるのか～パリ協定から未来へ!～』著 (岩波書店2016)

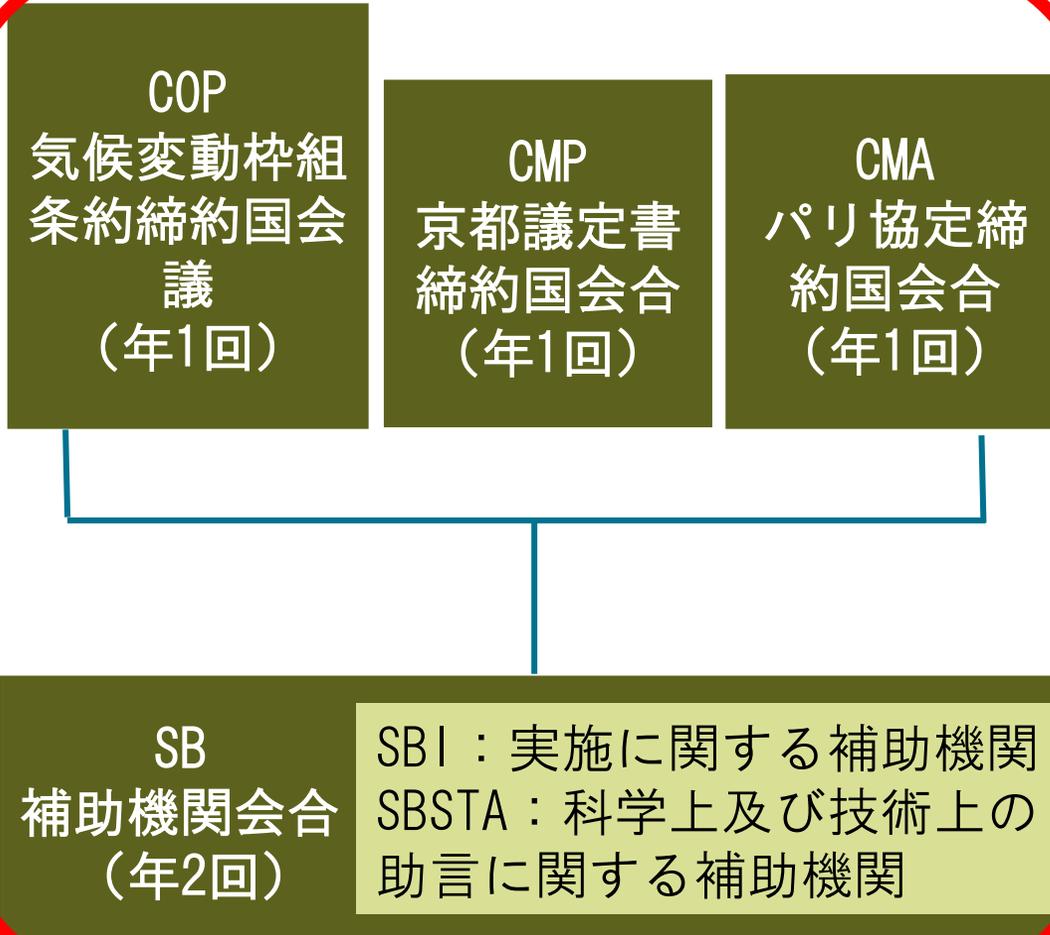


COP28（第28回気候変動枠組条約締約国会合）の構造



COP28の公式な成果

本来の国際ルール作りの場COP



ホスト国の主導宣言

- ・ 各国首脳サミット開催
- ・ 様々な国際宣言主導
 - 「持続可能な農業・強靱な食料システム・気候変動対応に関する首脳級宣言」
 - 「気候と健康」

街中の気候マーチ 国際NGO化石賞



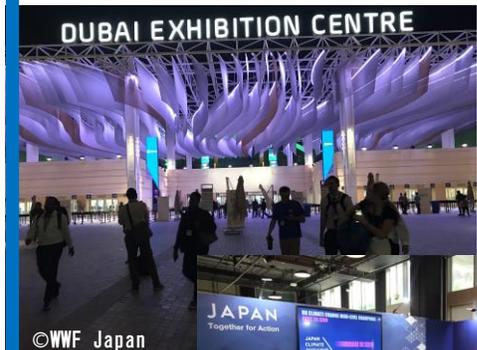
日本化石賞受賞

気候マーチ

様々な非国家アクターの 国際連盟の脱炭素宣言の場

例

- ・ 地域気候行動サミット「高い野心のマルチレベルパートナーシップ連合(CHAMP)」
- ・ We Mean Business「Fossil To Clean」政府に化石燃料からの脱却を求める公開書簡に200以上の企業が賛同
- ・ GFANZ (Glasgo Financial Alliance for Net Zero)
機関投資家の主要なネット・ゼロ団体を結集する連合で、130兆ドル(約1京7,500兆円)の資産を有する450社以上の金融機関が参画



©WWF Japan



©WWF Japan

日本のJCI（気候変動イニシアティブ）

COP28 アル・ジャベル議長



- ・UAE産業・先端技術相
- ・アブダビ国営石油会社(ADNOC)最高経営責任者(CEO)
- ・UAE気候変動担当特使
- ・再生可能エネルギー企業マスターズの創設者・会長

UAE(アラブ首長国連邦)

- ・世界第7位の石油生産国
- ・アラブ諸国で最初に2050年GHGネットゼロ目標
- ・2030年GHG削減目標(NDC)を、31%から40%へ引き上げ(2023年7月)
- ・1.5度目標支持

産油国の議長だが、COP28の前に、
化石燃料の段階的な削減は「避けられない」
および「不可欠」
再生可能エネルギーの出力を3倍の11,000GWに
と発言していた

COP28(2023年アラブ首長国連邦)の3つの成果

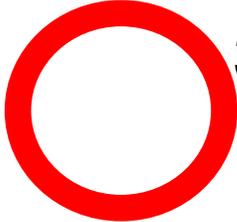


1. 初グローバルストックテイク (GST: これまでの各国の取り組み進捗評価)

- ・ 2035年に60% (2019年比) 削減 (IPCC) が入り、各国に2035年目標の参考値として、2025年に目標提出を促す
- ・ 適応・資金技術支援等の進展 (特にグローバルな適応ゴール)

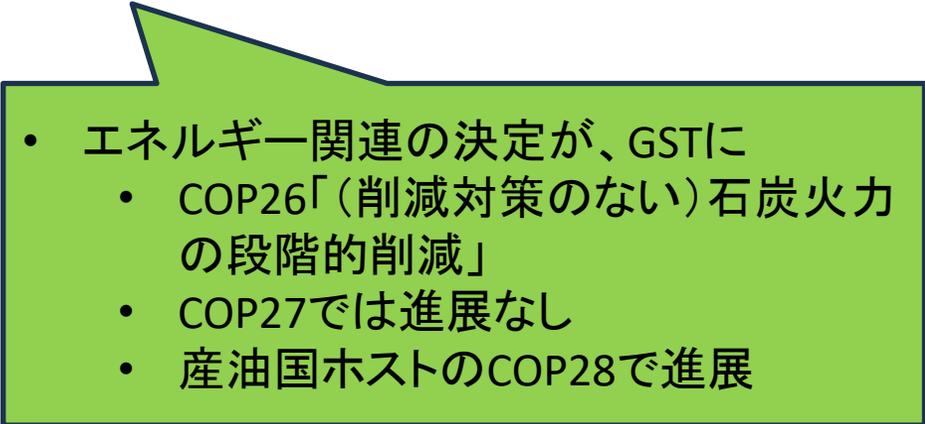
2. エネルギー関連の初めての合意! (GST)

- ・ 化石燃料から2050年ネットゼロ達成のための転換 (=脱化石燃料依存)
- ・ 2030年までに世界の再エネ3倍、エネ効率2倍 (=事実上2030年削減目標の強化につながる取り決め)



3. 損失と損害の資金支援組織の立ち上げ

- ・ 損失と損害の基金が初日に合意
- ・ UAE, ドイツ等資金拠出

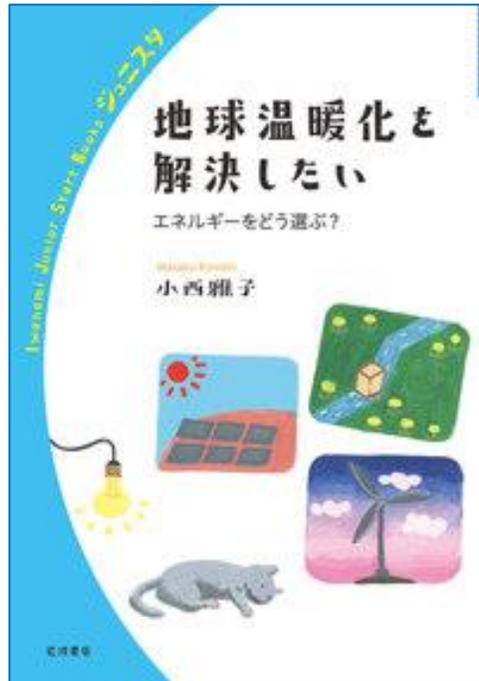
- 
- ・ エネルギー関連の決定が、GSTに
 - ・ COP26「(削減対策のない)石炭火力の段階的削減」
 - ・ COP27では進展なし
 - ・ 産油国ホストのCOP28で進展

注目!

COP28, 難航した化石燃料の転換に合意して延長一日で終了！



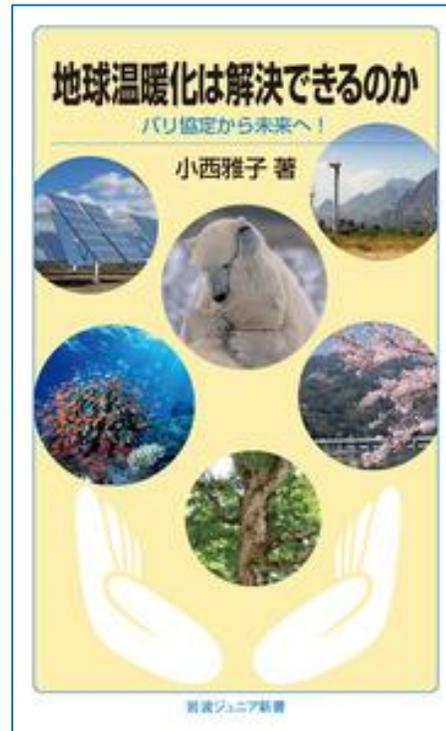
温暖化の基礎から全体像を知りたい方に！ 小西雅子著



温暖化対策＝エネルギー選択
エネルギーを選んで、将来社会を選ぼう！

地球温暖化を解決したい
岩波ジュニアスタートブックス(2021)

<https://www.iwanami.co.jp/author/a120076.html>



パリ協定をめぐる温暖化の全体像について
ぱっとわかりたい方へお勧め！

地球温暖化は解決できるのか
岩波ジュニア新書(2016)



気候変動政策をメディア議題に
～国際NGOによる広報の戦略～
ミネルヴァ書房(2022)

<https://www.minervashobo.co.jp/book/b600274.html>

ご参考：パリ協定の歩み

2015年パリCOP21

- 「**パリ協定**」採択（長期目標2度、できれば1.5度、今世紀末なるべく早期に脱炭素）
- ・非国家アクター・イニシアティブの活発化（COP20で始まった）

2016年マラケシュCOP22

- ・パリ協定発効、締約国会議CMA1開始（即延期：ルール決定が2018年の予定）
- ・米トランプ新政権パリ協定離脱宣言 ➡ We are still in など非国家アクター・イニシアティブの更なる拡大

2019年マドリードCOP25

- ・野心の強化（2030年各国NDCの引き上げ）要請
- ・パリ協定の残されたルール6条などに合意できず先送り

IPCC1.5度特別報告書（2018年）

- ・1.5度と2度で影響に大差
- ・2050年ゼロで1.5度が可能

2021年グラスゴーCOP26

- ・パリ協定の実施開始、6条合意でほぼ完成。多くの国がNDCを引き上げ再提出。
- ・パリ協定の長期目標を事実上**1.5度に引き上げ**
- ・**石炭火力の段階的削減**

1.5
度
主
流
に

2022年シャルムエルシェイク（エジプト）COP27

- ・損失と損害の基金の立ち上げ決定

パリ協定ルールブック(実施指針)

